

軍事作戦への配備は、兵士のメンタルヘルスの機能に負の影響を及ぼす



Photo: By Marines from Arlington, VA, USA

配備から24カ月以上経過して行われた評価によって、軍事作戦への配備は、すべてのメンタルヘルス領域（PTSD、うつ、物質乱用/依存、一般的な精神障害）、特にPTSDに対して悪影響があるという一貫した結果が得られた。

このレビューの目的は何か？

このキャンベル系統的レビューでは、軍事作戦への配備によるメンタルヘルスへの影響を検討している。185件の研究から得られたエビデンスをレビューで要約している。軍事作戦への配備の影響を定量化するため、すべての研究が観察データを用いていた。

さらなる研究が必要ではあるが、軍事作戦への人員配備は、兵士たちのメンタルヘルスの機能に対して負の影響があるということを、最新のエビデンスは強く支持している。

このレビューでは何を検討したのか？

兵士が海外での軍事作戦に配備されると、身体への危害のリスクおよびメンタルヘルスに悪影響を受けるリスクが増加するという状況に直面する。

検討を行う主な条件は、国際的な軍事作戦への配備である。軍事作戦への人員配備は一定の条件ではない。むしろ、さまざまな範囲のシナリオをカバーしている。軍事作戦への配備は、命令に従って母国外の場所での作戦において期間限定の兵役を行うことであると定義されている。

レビューには、軍事行動へ人員配備された兵士たちの結果について報告している研究が含まれている。このレビューは、配備によるメンタルヘルスへの影響について検討している。メンタルヘルスの影響は、心的外傷後ストレス障害（PTSD）、大うつ病性障害（MDD）、一般的な精神障害（うつ、不安障害、身体化障害）、物質関連障害である。

メンタルヘルスに対する人員配備の主な効果を特定し、これらの効果を定量化することによって、このレビューは兵役経験者に対する配備後のサポートだけでなく、人員配置と軍事作戦に関する政策の策定に対して情報提供を行うことができる。このようにレビューは政策立案者が主要な領域に優先順位をつけることを可能にする。

このレビューの主な知見は何か？

どのような研究が含まれているか？

このレビューには、人員配備によるメンタルヘルスへの影響について評価している研究が含まれている。合計で185件が特定された。しかしこのうち40件のみが、最終的な分析に含まれる有効な方法論的な質を有していると評価された。このレビューに含まれる研究は1993年から2017年にわたって行われており、多くが米国、英国、オーストラリアで行われていた。いくつか重要な方法論的弱点が、すべての研究においてみられた。レビューに含まれる研究のなかで実験デザイン（無作為割り当て）を用いたものはなかった。



Photo by Staff Sgt. Jonathan Lovelady

このレビューはどれくらい最新のものか？

このレビューの著者らは2017年4月までに発行された研究について調査した。このキャンベル系統的レビューは2018年6月に発行された。

キャンベル共同計画とは何か？

キャンベル共同計画とは、系統的レビューを公表する、国際的、任意的、非営利的な研究ネットワークある。本組織は、社会科学や行動科学の領域における取り組みのエビデンスを要約し、その質を評価している。本組織の目的は、人々のより良い選択とより良い政策決定を支援することである。

この要約について

この要約は、Campbell Systematic Review 2018:6 (“Deployment of personnel to military operations: impact on mental health and social functioning” by Martin Bøg, Trine Filges and Anne Marie Klint Jørgensen (<https://doi.org/10.4073/csr.2018.6>))の著者らが準備を行った。要約は、Tanya Kristiansen (Campbell Collaboration) が再デザインと編集を担当した。

この要約の作成のためのアメリカ研究機関からの財政支援に感謝の意を表す。



人員配備はメンタルヘルスへ影響があるか？

軍事作戦への人員配備は、配備された兵士らのメンタルヘルス機能に負の影響がある。配備から24か月以上経過して行われた評価によって、すべてのメンタルヘルス領域(PTSD、うつ、物質乱用/依存、一般的な精神障害)、特にPTSDに対して悪影響を及ぼすという一貫した結果が得られた。配備から24か月以下(もしくは変動する月数)の評価についてみると、エビデンスは一貫性が低く、多くの場合、決定的ではなかった。

PTSDまたはうつ病であると診断される割合は長期のほうが一貫して高かった。また効果が持続する可能性があるため、精神障害の検出と治療への取り組みを強化する必要があるということが示唆された。

このレビューの知見が意味するところは何か？

PTSDまたはうつ病であると診断される割合は長期のほうが一貫して高かった。このことから、効果は持続する可能性があるため、精神障害の検出と治療への取り組みを強化する必要があるということが示唆される。

レビューに含まれる研究の大多数が、全体的なバイアスのリスクが高い。配備がメンタルヘルスにどのような影響を及ぼすのか理解するための無作為化研究の実施は想定しがたいが、人員配備政策や兵士らの需要に対する予期せぬショックなどほかの課題については、準実験的の差異に関する豊富な情報源となる可能性がある。